



山口洋子

ちよっと
言えない話

青春出版社

ちよつと言えない話

著者 山口洋子
発行者 小澤源太郎

発行所

株式

青春出版社

〒162

東京都新宿区若松町12番1号
振替番号東京九一八六〇二番

電話 編集局 (03) 三〇三五一二三
営業局 (03) 三三七一九一六

★この本をお読みになったご意見ご感想を
編集部までお寄せ頂ければ幸いです。

印刷・深志印刷 製本・大口製本

ISBN 4-413-02089-8

© Yoko Yamaguchi 1978 Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写(コピー)することは
著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。

山口洋子

おひめひびきのおとこ話



青春出版社

まえがき　―男のへそ女の笑くぼ

どうしたら女にもてる！

どうやったら男にもてる？

これは男女の間の、永遠の謎と主題である。

私が思うに、その答えは男女それぞれが、真からお互いの違いを認識することに他ならないと思う。つまり、どう埋めようもない、両者の空間と谷間を見すえた後、敵を知りつくしてから改めるとゆう方法しか残されていない。

世の人間は、恋とか情事とかに對して、必ず自分の性の方に都合よく相手を考えがちであるが、からだの凹凸でさえ、これだけの違いがあるのだから。

目にみえない精神が太ちがいにながわれないわけがない。

長年酒場をやったり、人間をやって自分も死ぬほど惚れたりふられたりしていると、その深くて淋しい溝を、否応なく具体例としていつも身にしみさせられてしまう。そのくせ、新しい恋をするたびに今度こそはと、渡れるはずのない兩岸の岩壁に連絡船を浮かべてしまうのだ。

ああ恋する者にとって、ボートは夢であり、オールは努力である。

權（甲斐）なきこととゆうなかれ。

その弱さが女、その馬鹿さかげんが男なのである。

惚れた男に「もういいよ」とゆわれながらがりつき、片想いの女に冷笑されながら通いつめる。しかし、このうろたえぶりが、実は何と人間をチャーミングにしていることか。

まこと恋は人生のへそであり、笑くぼであり、エポックである。

そこでもう一度、

どうしたら女にもてる！

どうやったら男にもてる？

ああ、あなた。

そうやって一生懸命もててみたところで、行きつくところはやっぱりしょせん男は男、女は女。そんなことなら男は男らしく、女は女らしく最初から居なおった方が楽で正解で――

男は「オイ」

女は「ハイ」

で結局いいんじゃないかと――。

悟れぬ悟りをひらいたこの「ちょっと言えない話」であります。

山口 洋子

☆ちよつと言えない話〔目次〕

まへがき — 男のへそ 女の笑くば

1 あなたのイタがる場所 9

2 かっこいい突っ張り方 15

3 男のウィーク・ポイントを突く女 23

4 オチンチンに甘える女 30

5 女のアホと男のアホ 37

6 女がはじけない損得勘定 46

7 いやらしい女の夢 54

8 尻尾のない犬になった男 62

9 女と男のこころは大違い 68

10 腰ぬけ男が増える原因 76

11 "あなた"より"アンタ"と呼べる男 85

12 眼は"気持"口と顔は"欲望" 91

13 女をおとす口説きのやりかた 97

14 落っこっちゃった男女の顔 105

15 不確実な時代の女の気持
16 女は余韻を味わいたい
17 男の尻にアツアツになった女
18 カッコよく見せる男の要諦
19 女を妙にかきたてる男の匂い
20 男の立ション姿
21 男が尻ぬぐいする場所
22 穴にはまっちゃう名文句
23 誰でも頭で経験する話
24 ああ「妻女」「才女」「財女」「災女」
25 女だけの切ない切ない事情
26 ぐうたら亭主と美人妻
27 女の快樂は男に貢ぐものなり
28 過ぎ去った恋に出会った男と女

113 112 131 137 144 152 157 165 173 181 186 191 198 202

本文カット・渡辺豊重

1 あなたのイタがる場所

おっ、畜生め！

頭にくると思えども、実にうまいことわりかたをする女が、世の中にはいるもんだ。ああうまくボンとことわられると、見事すぎて腹も立たねえ、と遊び人のある兄さんがいつていたが、ぐつとくるそのひとこと。

「どうだ、俺と一度ぐらい」

「残念でした、秋の交通安全週間！」

旦那もちの女は、スピード違反と接触事故がいちばんコワイわけ。

「なあ、俺に決めるよ、あれこれ迷ったっていいことはないぜ」

「フン、ビーフステーキにしようか、天ぷら定食にしようかって迷っているのに、お茶菓子先に食えて、そりゃ無理よ！」

ああ悪かったよ、俺はどうせお茶菓子さ、とひがんでわめきちらしたところで、よく考えてみ

りや、あとの二人は大物だ。すいませんでしたとひっこむばかり。

「頼むよ、ね、おねがい、愛してるからさ、ねッねッ」

「頼んでするほどヤボじゃなし、頼まれてするほどヒマじゃなし、と」

これなんぞ立派に歌の文句になっている、結構。

「よお、何とか俺を男にしてくんねえか」

「あら、わたしレズよ」

いくら口説いたってレスビアンじゃしようがない。

「いま、空家だつてな、ひと勝負してみようじゃないか」

「チンケに負けるブタもいるってね、好みじゃないのよ、ごめんなさい」

なに、おまえがチンケで俺がブタかい、ああ、悪かったよ、この野郎。ところで世の中でいちばん短い女のことわり文句は、こういうのだそうだ。

「どう、もうそろそろ思いきって、俺と何とかなっちゃわない、今夜あたり？」

「いくらで？」

× ×

男にとってたまらない女の言葉というものがある。例えば「いいのよ、私のことなんか」とか「奥様を大事にしてあげて」とか、やや減私奉公じみた言葉が男の愛情と俠氣心きやうきしんをそそり立てるものらしい。

ほかに「別れたあとも愛していてね」「体が離れても心はけっして離れないわ」「あなただけで幸せになつて」等々……。

こうして書き連ねてみると、男つていうものは、なんと手前勝手な言い分ばかりが好きなのだろうと思える。しかし、もう一歩先へ進めて考えてみると、やっぱり男は大甘のロマンチスト。大体、こんな言葉を女が本気で口にしていていると思つていいのかしら、といいたくなる。

「奥様を大事にしてあげて」なんて、だれがお前さんの女房なんか大事にしてくれと願つているもんか。早くあの世へ行けば、と思つてゐるのが本音中の本音。

「体が離れても心はけっして離れないわ」だと。冗談じゃない。体と心が一緒に行動するのは女の特徴で、さよならをいったとたん、ほかの男に抱かれて「ああ、あなたに会えて私、本当によかった——」なんて、その男の胸毛を涙でぬらしつてゐるのが現実というものである。

泣きの涙で別れた前の男が、うるむ町の灯を見つめて「ああ、あいつも今ごろ」と思いにふけり「苦勞させて悪かつたな」と苦い酒にみの一杯も飲んでゐる。ああ、そのまぬけ面におりしもたそ

がれの通り雨……。

歌謡曲の文句で割りとスタンダードに残っている名曲の言葉は、これつまりすべて男の夢と理想を表しているわけ。

女の方もそこは心得ていて、そういう言葉を男のために常日ごろ是非いいたいと思っているのだから、さもさもそれが真実から出た女の叫びであるがごとく「幸せになつてね。私、祈ってます」「忘れられないあの人だけど、別れにやならない女の意地なの」とか、もっともらしいセリフで歌っているのであります。

× ×

ところで、男の女に対する好みというのは、どうも生涯一本の線から逃れられないような気がする。

それは例えば、イメージ的におふくろや姉さんに似た女であったり、初恋の女性の面影を追っているという場合もある。

全く遊びの気分の場合は別として、いわゆる清純派の桜田淳子や岡田奈々がいいと思う男性が、太地喜和子とか小川真由美といったような、妖艶な女性に惚れちまうことは、あまりあり得

ない。

それを証明するのに面白いデータがあるのだが、「姫」でAというホステスを指名で来ている客が多勢いるとして、その客が他店へ行った場合もほとんどがまた、同じようにBというホステスを重ねて指名してしまう、ということがある。

あ、あなた、うちでA子の指名なら、あの店ならB子、この店ならC子を呼んでるでしょう、とたどころにわかってしまうくらい、その行動半径は狭いのである。また、そのA子が退店した場合、次に指名するホステスのタイプも、また決まっている。

A子がやめたんだから客もみなフリーになって、どの女の子を指名してもよさそうなものなのだが、悲しむべし、ここでもまた同一パターンで、次の指名のホステスがたった一人にしぼられてしまうのである。

外見でいうと、やせ型とポッチャリ型、着物型、ドレス型。

性格でいうと、おっとり型、積極型。

先ほどもいった清純派、肉体派。

この二つの対比の壁は、絶対妥協できない一線であるらしい。純然たる遊びの場合は別としてこのタイプに弱いんだ俺、みたいなところは全ての男性の最大の泣きどころである。

ところが、女には案外それがない。抱かれちまえば、そいつがベストみたいに見える臨機応変さがある。そういう意味でいうと、男の方が断然恋にも情事にも知的でロマンチストである。

反対に女の方がかなり動物的で現実的だといえる。ところで、私の好みは、毎度いうようにターザンと織田信長。そして、一緒にいる男は冒険ダン吉なのであります。

2 かっこいい突っ張り方

惚れてしまえばあばたも笑くぼ、ということもあるけれど、女が急にその男に冷める瞬間でもある。

それもほんのちょっとしたささいな事柄なんだけど、許せなくなるわけ。例えば、それはお金にちなんだことが多い。金というものは、人間の卑しさの本性をあばきたてる恐ろしさがあるから、十分気をつけなければいけない。

金を持ってるか、貧乏かということではなくて、金に対する姿勢とあつかいで、その男が豊かかどうかがわかると思う。まえにこんなことがあった。

俺の会社は順風満帆、儲かって儲かってしょうがない、金をどうやって使おうか苦労しているのだ、とアラブの石油王みたいなことをいっている男と食事をした。

「でも、金は天下のまわりもの、金で愛情を買いたくない。恋はもっと純粹無垢なものでありたい」